

平成28年度学校公開研究会

道徳 学習指導案

○学 級 3年1組

○単元名

「ぼくにもこんな「よいところ」がある」

○指導者 千葉 哲 朗

盛岡市立上田中学校

第3学年 道徳学習指導案

指導者 教諭 千葉 哲朗

- 1 日時 平成28年7月1日(金)公開授業① 第1校時
2 学級 盛岡市立上田中学校3年1組 男子20名 女子16名 計36名 南校舎2階3年1組教室
3 主題 自己を見つめ、自己の向上を図る「個性の伸長」1-(5)
資料名 「ぼくにもこんな『よいところ』がある」(出典 『中学道徳3 明日をひらく 東京書籍』)

4 主題について

内容項目1-(5)は「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。」ことを目指している。一人一人の人間は姿や形が違うように、人それぞれには必ずその人固有の良さがある。「個性」とは、他者と取り換えることのできない一人一人の人間がもつ独自性であり、それはその人の一部分ではなく、人格の総体である。個性は、能力・適正、興味・関心、性格といった様々な特性においてとらえられる。個性はその人固有の持ち味とも呼べるものであり、個性を伸ばすとは、固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることである。自分自身でいやだと思っているところも、見方を変えて磨きをかけることで、輝く個性になり得るのである。個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。「充実した生き方」とは、他者とのかかわりの中で自分らしさを発揮している生き方であり、自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を生きることである。自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得されるものである。

本学級の生徒は、それぞれに好きなことや目標などをもっている。また、受容性が高く、仲間に対して自分と違う意見についても認めることができる集団である。しかし、生徒の中には集団の考えが自分の考えと異なることに不安をもったり、そのことにより自信を無くしてしまったりする生徒もいる。また、自分の個性を自ら認めることができないため、自己肯定感の低い生徒もいる。そのため、自分の想いを表現することを躊躇することもある。

本資料は、真面目である自分を受容できずに苦しんでいる主人公の話である。ある日、保健委員の副委員長である主人公は、責任感からゴミ拾いなど環境整備に取り組んでいるが自分のものを散らかしたり、授業中に私語を当然のようにする友達を責める気持ちをもつようになった。しかし、「こんなことを考えている自分自身が問題のあるこどもなのだろうか」と自信をもてないでいた。一学期の終業式前に一人一人の良いところを全員一人ずつ用意した紙に書く機会があった。そこで書かれた学級の仲間が見つめてくれた「よいところ」を読んで「人のいやなところばかり見てどうなるのか」「人のよいところを見たらいいじゃないか」と肩の力が抜け、自分や他者の良いところを見ようとする気持ちへ変化していく。この話を通して、自分の良くないところばかりに目が行きがちで、自分では自信がなくとも、他の人から見ればそれは良い点であることや、他人に対しても良くない点ばかりでなく、良い点を見つけようとする主人公に着目させることで、自分の個性を見つけ認めていこうとする態度につなげたい。

5 本時の評価

道徳的心情	自己を見つめ自己の向上を図る姿を賞賛的にとらえている。
道徳的判断力	自己を見つめ自己の向上を図ることが大切であることを理解している。
道徳的実践意欲・態度	自己を見つめ自己の向上を図るとともに、個性を伸ばし、充実した生き方につなげようとしている。 【生徒の記述例】 主人公の自分の嫌な部分だけでなく良い点も見ようとすることや、周りに対しても嫌な部分だけでなく良い部分を見ようとするところが素晴らしいと思いました。自分を見つめて良いところだけでなく嫌なところもあるけど、見方を変えて長所を見つめることも大切だと思いました。自分はこれまで人の嫌なところばかりを見ていたけれど良い点も見つけていきたいと思いません。その中で自分の良さに気付けるようにしていきたいと思いません。

6 本時の指導構想

(1) 本時のねらい

自己を見つめ自己の向上を図るとともに、個性を伸ばし、充実した生き方につなげようとする意欲を育む。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題設定】

考えがいのある課題を「「ぼく」はなぜ「これまでとちがって落ち着いた気持ちでいることができると感じたのだろうか。」と設定する（4 「「ぼく」はなぜ「これまでとちがって落ち着いた気持ちでいることができると感じたのだろうか。」。本資料のあらすじの確認の際にふれ、課題をつかませたい。

【「論理の思考型」の使用】

授業を通してすべての思考型を用いて考えさせたい。

ただし、第2発問である主人公の気持ちに対しての判断場面では、類推思考、類別思考を用いて考えさせたい（2 「「ぼく」が、まだ使えるものを捨てたり、授業中私語をしたりしている友達を責めなくなったことをどう思うか。）。根拠をもとに理由づけしながら自分の考えを発言させたい。

【かかわり合い】

教師を通しての個と全体のかかわりで授業を展開する。個人の意見を全体で発表し、その意見に対する考えを発表させることでかかわり合いを仕組んでいきたい。また、他の意見を自分の意見と比べて、関連性があるか、別の考えであるかを判断し、生徒同士のかかわり合いを意識させたい。

【自己評価活動】

終末において、自己評価活動を行う（※価値について考えたことを記入、発表をする。）。

本時の流れを振り返り、「自分の嫌な部分だけを見るのではなく自分を振り返ること」や「周りに対しても良い部分に目をむけることの大切さ」に気付かせ記述させたい。また、「自分の良い部分を見つけられるよう自分自身をしっかり見つめたい。」や「周りに対しても嫌な部分だけでなく良い部分を見つけていきたい。」など、今後の道徳的実践意欲や態度にもつながる記述をさせたい。

7 本時の展開

段階	過程	学習活動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 8分	状況の把握	※ 自分のよいところについて確認する。 ※ 主人公について確認する。 ※ 資料の範読		・資料に対する共通理解をさせる。
展 開	課題意識を高める 価値の追究 変容契機をとらえる 価値の把握	※ あらすじの確認 ※ 主人公についての感想を聞く 1 なぜ、「ぼく」は自分のまじめさを受け入れられずに苦しんでいるのだろうか。 2 まだ使えるものを捨てたり、授業中私語をしたりしている友達を責めなくなった「ぼく」をどう思うか。 【類推思考, 類別思考】 3 クラスメートが書いてくれた自分のよいところを読んで「ぼく」はどんな気持ちになったのだろうか。 4 なぜ、「ぼく」が「これまでとちがって落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのだろうか。	・テレビで「まじめに見える子どもも問題を起こすことがある。危険です」と聞いて、・・・自分に自信がなくなったから。 ・何事も言われたことをきちんとやろうとし、逆に適当にやってしまう人を見ると落ち着かない自分に自信が持てないから。 ・真面目とみられることがいやだから。 〈仕方ない〉 ・みんな自分のすべきことはしなくてはいけなから。 ・人に迷惑をかけることはよくないし、人のことを責めてしまうことはあるから。 〈悪い・良くない〉 ・それくらいで気にしてはみんなの気持ちを分かることはできない。 ・主人公のように、なんでもきちっとできる人ばかりではないから ・自分の良いところに気付くことができ、自信をもつことができたから。 ・周りの友達が自分のことをこのように見ていることがうれしかった。 ・自分が周りの見方が変わったから。 ・自分の良いところに気が付き自信が付いたから。 ・自分はこのままで良いんだと思ったから。 ・自分以外の人に対しても良いところを見るように変わることができたから。	・テレビのコメントを聞いて、自分が問題のある危険な子どもであると思われたくないという気持ちに共感させる。 ・誰でも人を責め気持ちは、誰でも持つっていることに気付かせたい。 ・周りの言葉から、主人公が自分の良いところに気付くことができたこと、周りの良さに気が付くことができたことに触れさせる。 ・主人公が自分を受け入れ、自分に対しても周りに対しても欠点ばかりに気を取られないようになったことに気付かせる。
終末 12分	自己評価活動	※ 価値について考えたことを記入, 発表 【自己決定】	主人公の自分の嫌な部分だけでなく良い点も見ようとすることや、周りに対しても嫌な部だけでなくいい部分を見ようとするところが素晴らしいと思いました。自分を見つめていいことだけでなく嫌なところもあるけど、長所を見つめることも大切だと思います。私もこれから自分の良いところを見つけられるように、自分自身を見つめていきたいです。	【道徳的実践意欲・態度】 自己を見つめ自己の向上を図るとともに、個性を伸ばし、充実した生き方につなげようとしている。 〈学習シートの記述〉

(資料分析表)

主なる場面	主人公の心の動き	指導の意図	期待する生徒の反応	発問
自分のまじめさを受け入れられずに苦しんだ「ぼく」	<ul style="list-style-type: none"> ・言われたとおりにやる自分をまじめな人間だと思われたくない。どうしたらいいのか。 	テレビのコメントを聞いて、自分が問題のある危険な子どもであると思われたくないという気持ちに共感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビで「まじめに見える子どもも問題を起こすことがある。危険です」と聞いて、・・・自分に自信がなくなったから。 ・何事も言われたことをきちんとやろうとし、逆に適当にやってしまう人を見ると落ち着かない自分に自信が持てないから。 ・真面目とみられることがいやだから。 	「ぼく」は自分のまじめさを受け入れられずに苦しんだのはなぜだろう。
まだ使えるものを捨てたり、授業中私語をしたりしている友達を責めた「ぼく」。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校はごみ捨て場ではない。」「まだ使えるのに。」 ・「どうしてもっとまじめに勉強しないんだ。他人にめいわくをかけて平気なのか。」 	人を責め気持ちは、誰でも持つものである、という意識をもつようにする。	<p>〈仕方ない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな自分のすべきことはなくてはいけないから。 ・人に迷惑をかけることはよくないし、人のことを責めてしまうことはあるから。 <p>〈悪い・良くない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それくらいで気にしてはみんなの気持ちを分けることはできない。 ・主人公のように、なんでもきちっとできる人ばかりではないから 	まだ使えるものを捨てたり、授業中私語をしたりしている友達を責めなくなった「ぼく」をどう思うか。
クラスメートが書いてくれた自分のよいところを見て、嬉しさを押し込めて読み進めることができなかった「ぼく」。	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばっていたことを認めてもらいたい。 ・人の嫌なところばかり見ていた自分を後悔し、もっと大きな心で見よう。 ・自分の「まじめさ」に自信をもとう。 	周りの言葉から、主人公が自分のよいところに気付くことができたり、周りの良さに気が付くことができたことに触れさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところに気付くことができ、自信をもつことができてうれしい。 ・周りの友達が自分のことをこのように見てくれていることがうれしかった。 ・自分自身の周りの見方が変わって前向きになった。 	最初は照れくさかったが、やがてうれし涙で目が湿ってきて、それ以上読み進めることができなくなったのはどんな気持ちからか。
「これまでとは違って落ち着いたきもちでいることができる」と感じるようになった「ぼく」。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にもよさがあったのでそのことに自信をもってがんばろうとしている。 ・他の人のよさを積極的に認めていこうと思っている。 	主人公が自分を受け入れ、自分に対しても周りに対しても欠点ばかりに気を取られないようになったことに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところに気が付き自信が付いたから。 ・自分はこのままでいいんだと思ったから。 ・自分以外の人に対しても良いところを見るように変わることができたから。 	「ぼく」が「これまでとちがって落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはどんな気持ちからか。

ぼくにもこんな「よいところ」がある

【クラスメートが書いてくれた自分のよいところを読んで「ぼく」はどんな気持ちになったのだろうか。】

【 今日の授業で学んだこと 】

・今日の授業を通して考えたことや感じたこと。

今日の授業で、素晴らしいと思ったのは、誰のどんな発言ですか。

3年()組()番 氏名
